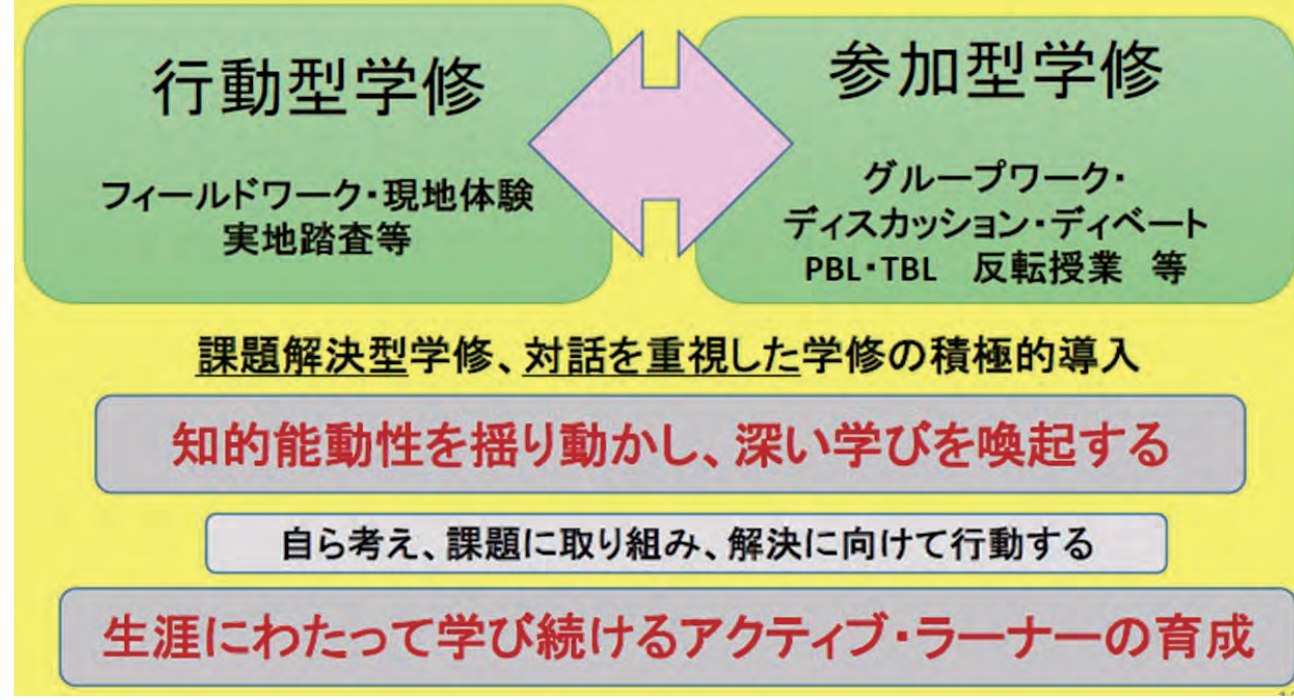


アクティブ・ラーナー育成をはかる組織的取組 —授業改善スキームの構築—

県立広島大学型アクティブ・ラーニング (Campus Linkage Active Learning: CLAL)



(((本講義におけるアクティブ・ラーニングの考え方)))

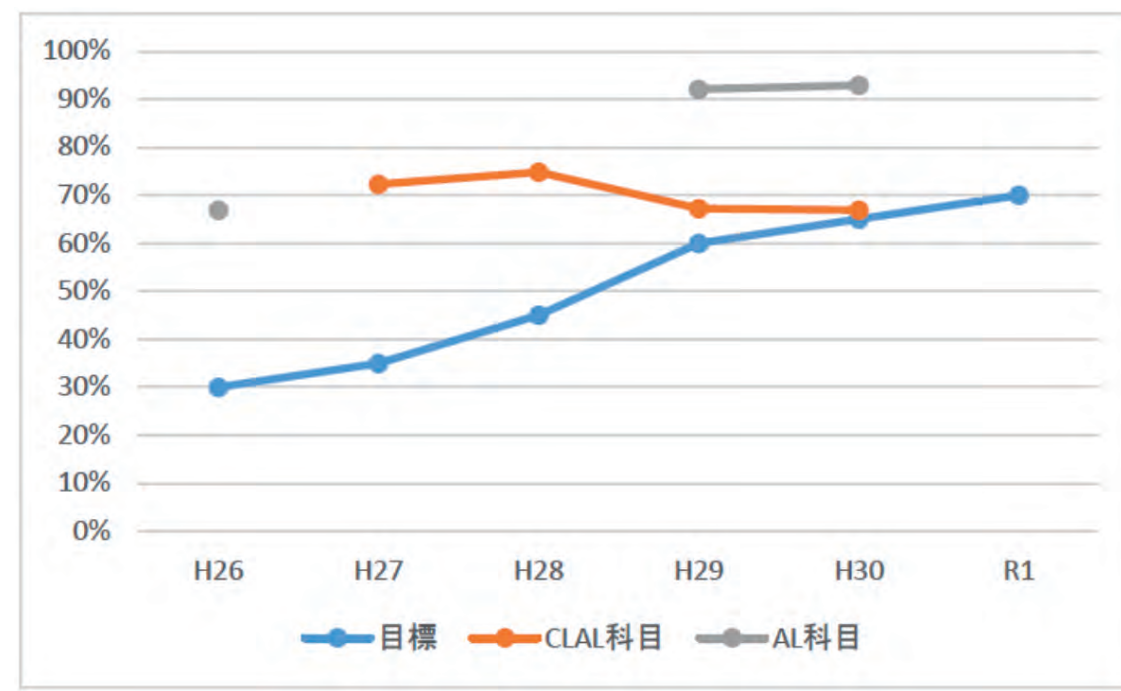
(1) AP事業では、アクティブ・ラーニングを、主に教室外で行う行動型学修と、主に教室内で行う参加型学修の2軸で捉えています。下表に掲げる各手法は、授業の特性に応じて導入し、有機的に組み合わせて実施することで、学生の学修姿勢の転換に効果的に作用すると考えています。

区分	行動型学修	参加型学修
1	a. フィールドワーク b. 他キャンパスの視察 c. 他キャンパスとの交流 d. その他(行動型学修)	e. グループワーク f. ディスカッション g. ディベート h. TBL i. その他(参加型学修)

(2) さらに、アクティブ・ラーニングの浸透による学修姿勢を転換させるには、ある程度の量(時間数)が必要と考えます。下記に掲げる時間的基準を満たしてAL手法を導入する授業を、特に「**県立広島大学型アクティブ・ラーニング(Campus Linkage Active Learning: CLAL)**」と称し、質と量を学んだアクティブ・ラーニングを促進する本講義の目標として定めています。

1) 1学期における授業(90分×15回=1,350分)の中で300分(11授業あたり20分×15授業)を充て、本学が定める行動型・参加型アクティブ・ラーニング手法を取り入れ実施する授業

(3) なお、本事業は、全ての授業に300分以上のアクティブ・ラーニング手法を導入しようとするものではありません。授業の目的や特性に鑑み、必要に応じて積極的に導入していただくことを趣旨としています。



学修成果の可視化 (ルーブリックの活用)

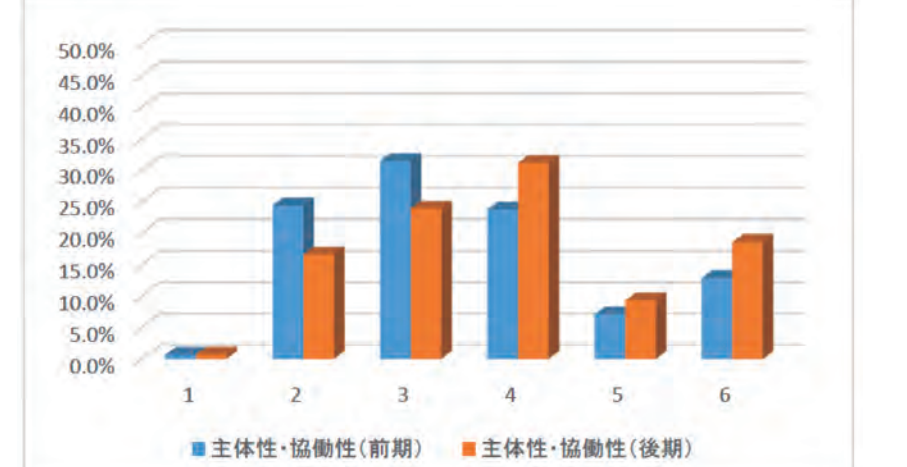
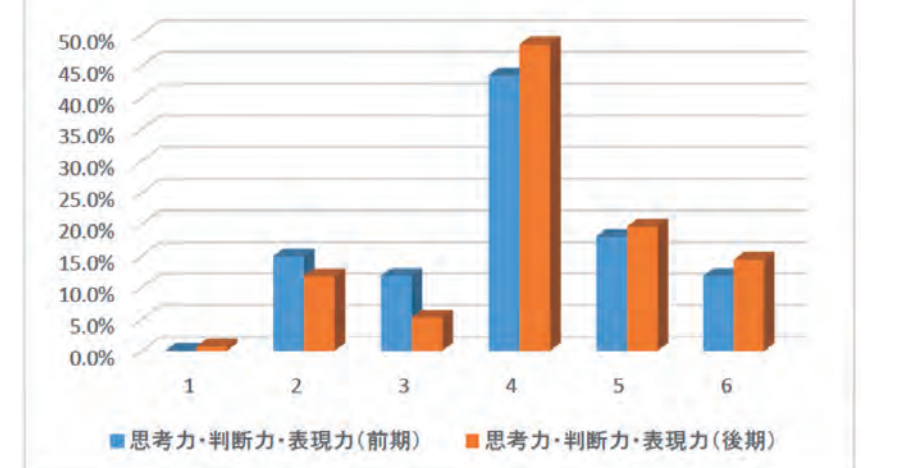
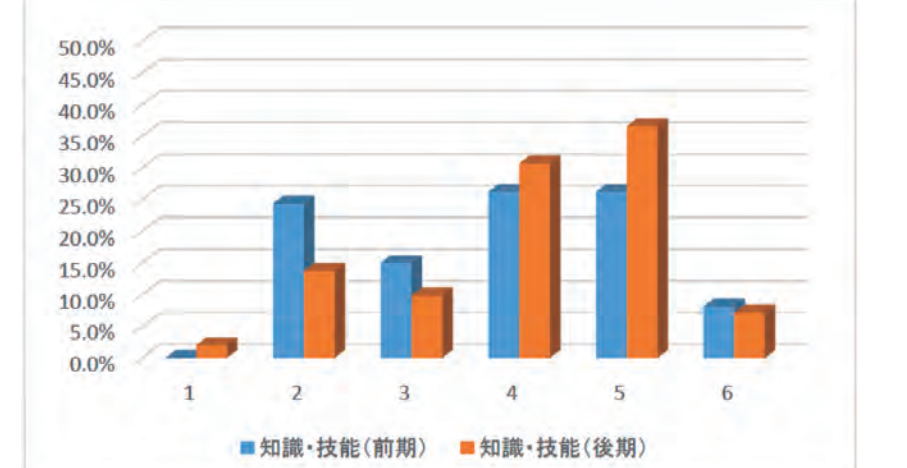
自己評価ルーブリック (キャリア・ポートフォリオ・ブック)

自分(わたし)の「大学生生活」

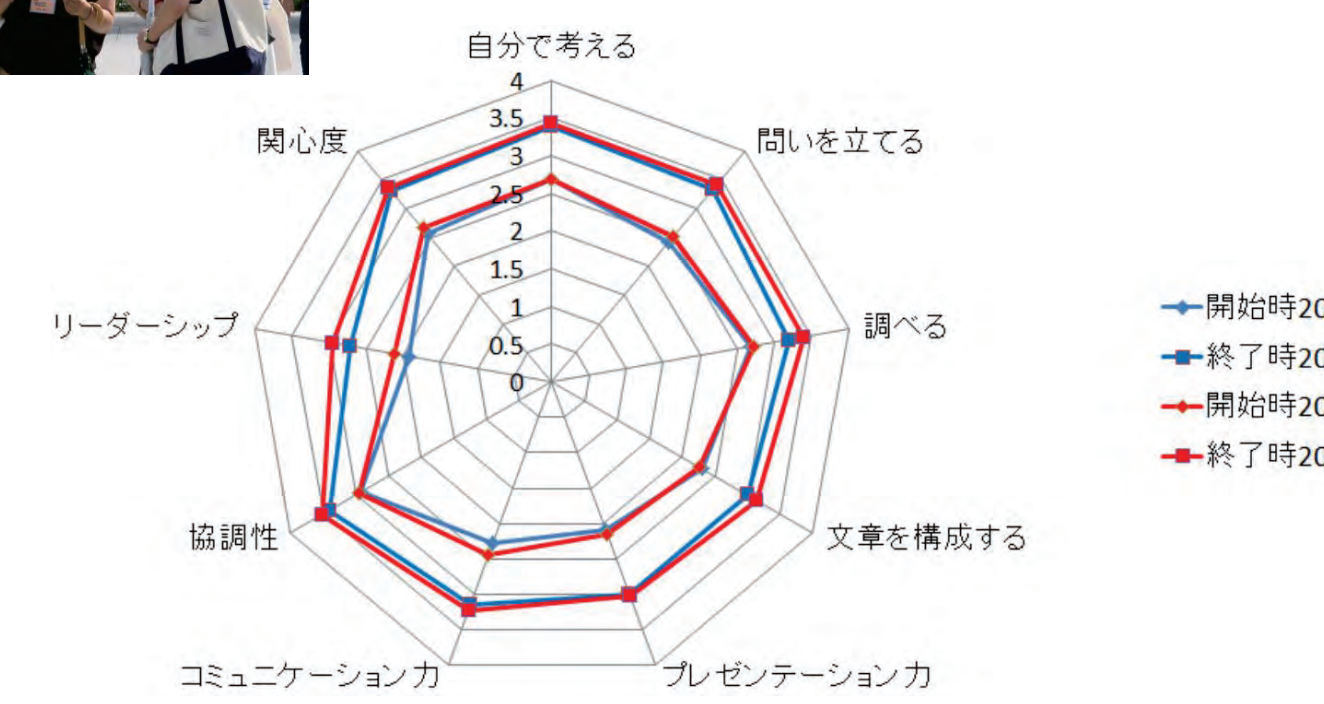
【授業・学修生活】 主体的な学修態度

【授業・学修生活】 主体的な学修態度

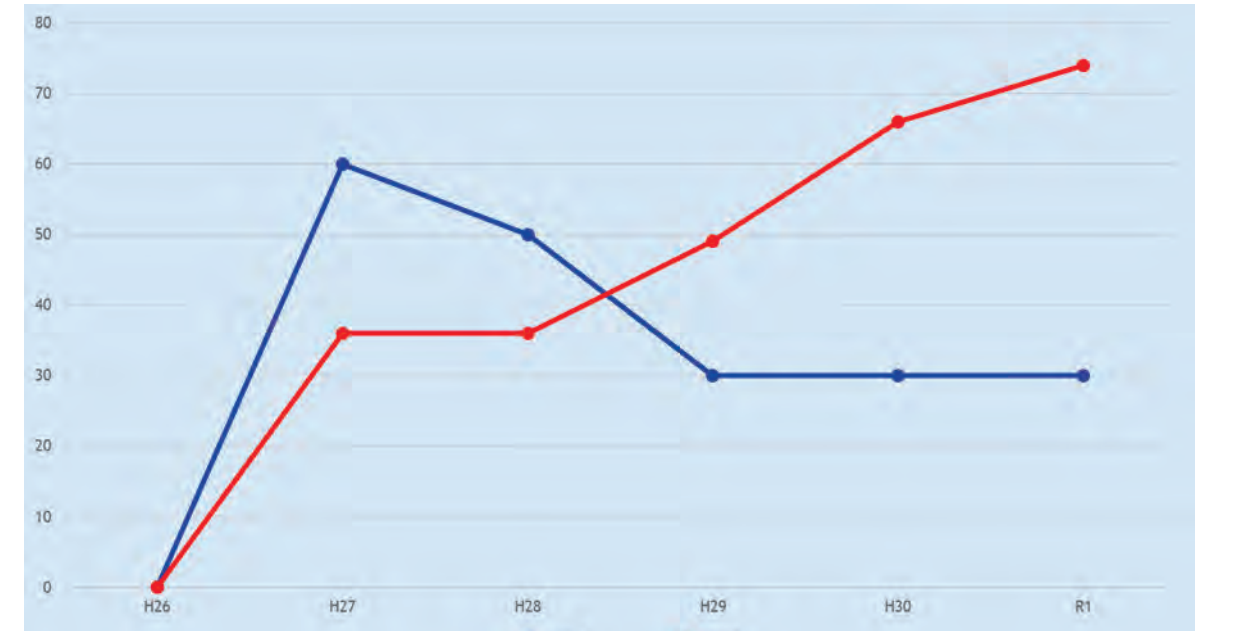
() 序次 (前期) 科目名 (後期)	科目名 (前期)	科目名 (後期)	年月日
1	基礎科目(前期)	基礎科目(後期)	
2	基礎科目(前期)	基礎科目(後期)	
3	基礎科目(前期)	基礎科目(後期)	
4	基礎科目(前期)	基礎科目(後期)	
5	基礎科目(前期)	基礎科目(後期)	
6	基礎科目(前期)	基礎科目(後期)	



科目ルーブリック (地域情報発信論)



ファカルティ・ディベロッパー (FDer) の養成



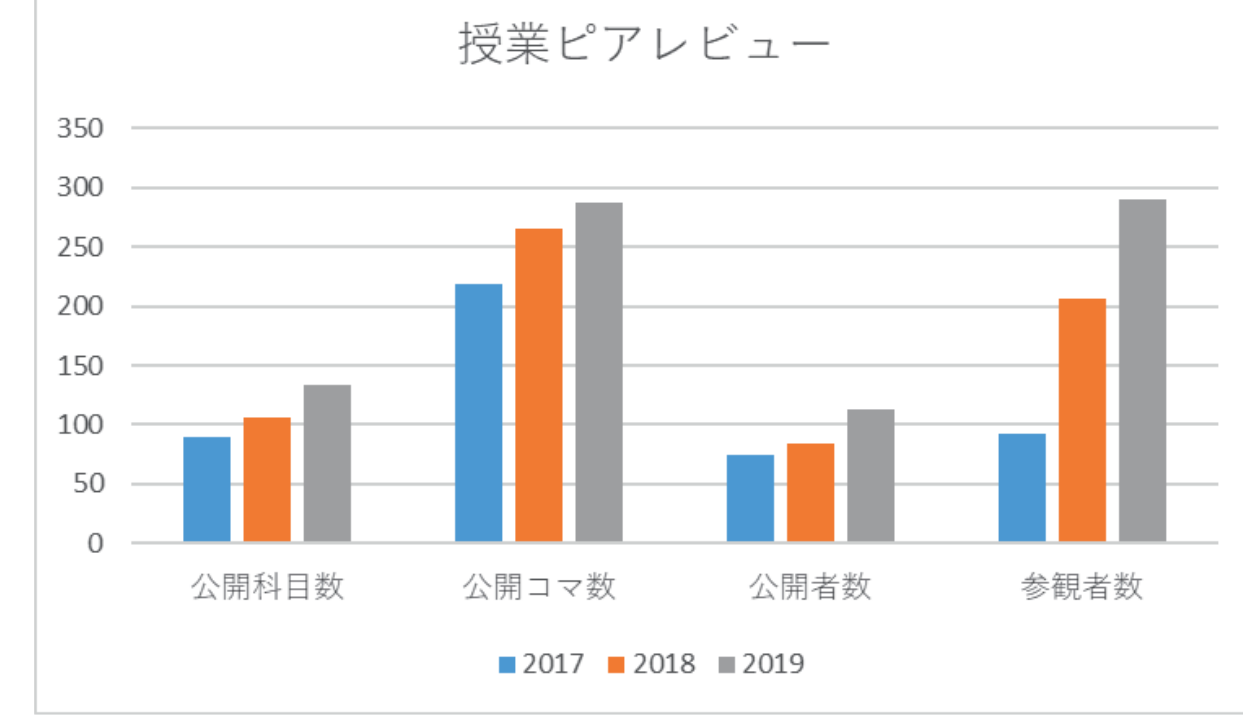
FDer: 担当授業においてアクティブ・ラーニング (AL) を実践し、学科内の他の教員へALに関する指導・助言を行うとともに、本学におけるAL普及・浸透に努める

令和元年度 後期授業ピアレビュー

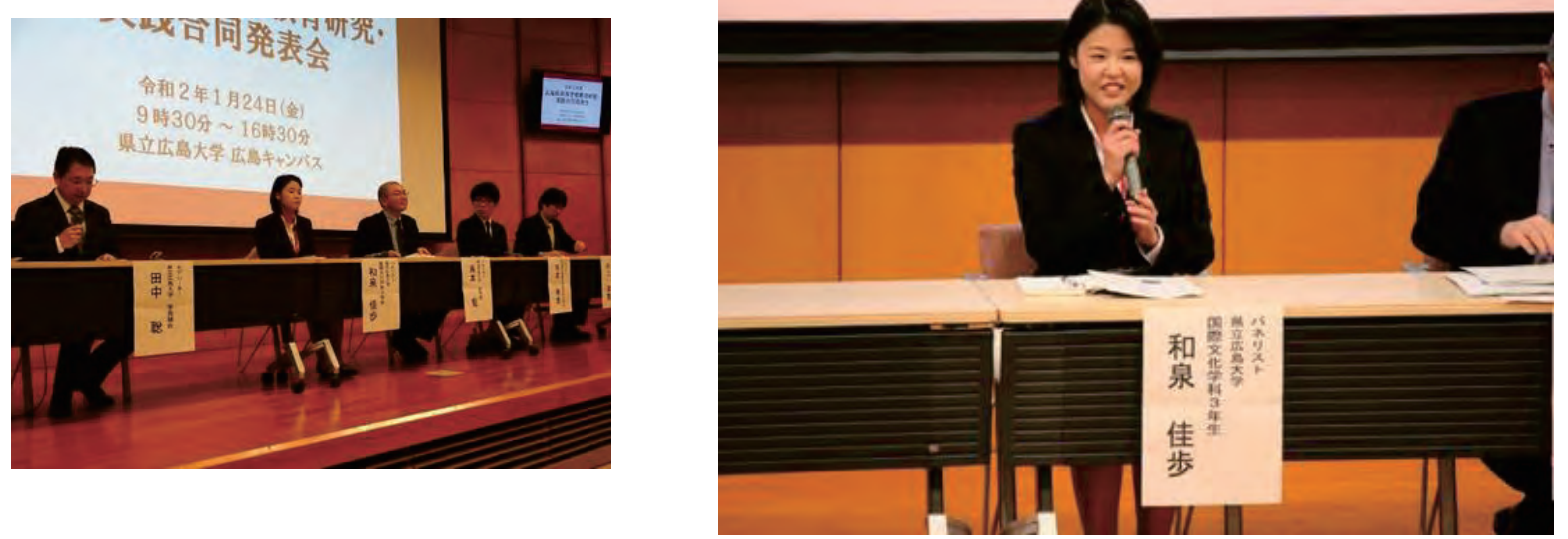
【1】実施時期: 講義は後期前半(全休後 11月1日(金)～12月24日(水))

【2】出席率: 出席率(%)は11月の出席率(11月1日(金)～11月30日(金))と12月の出席率(12月1日(土)～12月24日(水))の平均値とする。

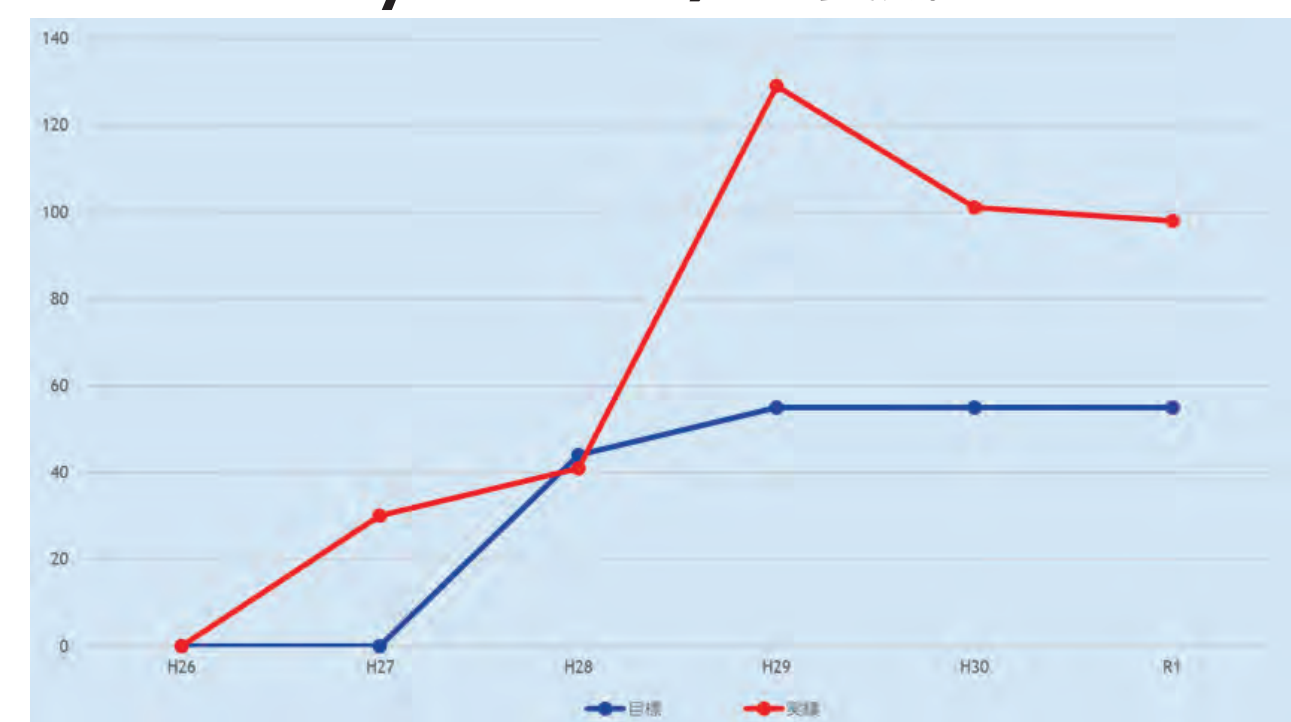
【3】評価方法(教員向け): 出席率(%)は11月の出席率(11月1日(金)～11月30日(金))と12月の出席率(12月1日(土)～12月24日(水))の平均値とする。



ティーチング・ポートフォリオ (TP) 作成ワークショップ



学修支援アドバイザー (SA: Study Adviser) の養成



SA: 授業内外において本学学生への学修支援を行う学生であり、他者の学びを支援すること等を通じて、自身が学ぶ喜びを感じ、生涯学び続けるALerを目指す。



「教・職・学」協働による教育改革ミーティング(教職学MTG)



県立広島大学アクティブ・ラーナー育成のための教職員研修体系

